

タイトルの「MATOI」は、江戸の町火消しが用いた「縄」のように、火の粉（災害）を振り払い、安全な大分市を作りたいという願いを込めています。

まとい おおいた

MATOI OITA VOL.3

CONTENTS

- 実は私も消防団員です
- 新消防団長就任あいさつ
- 消防団NEWS
 - ・大規模災害対策装備の強化
 - ・スペシャルムービーの完成



★消防団長 就任あいさつ



4月1日付けで大分市消防団長に就任しました安東健治です。どうぞよろしくお願いたします。

消防団は、今後発生が懸念される地震や豪雨災害などの被害を軽減できる強い地域をつくるための中核的存在として、その重要性が再認識されています。

そのような中、本市消防団では、令和7年度までの中長期的な指針である「大分市消防団ビジョン」に基づく着実な活動を継続することで、団員高齢化や担い手の不足といった諸課題を解決しながら、地域に親しまれ活力ある消防団づくりを目指した取り組みを行って

います。

私は、これからの消防団には、目的を共有する消防局と現場や育成面で連携しながらも、「地域密着性」という特性を十分に活かし、消防局に不足する点を補えるような強い消防組織として自立することが必要と考えています。

そこに向けて、分団や方面隊の本部機能の充実、自主防災訓練への積極的参加、女性消防団員の活躍推進、若い団員を育てる環境づくりなどに力を入れて取り組んでまいります。

地域住民からなる消防団は、皆様のご理解がなければ存続できません。災害に強い地域、皆が安心して暮らせる大分市をつくるためにご協力をお願いいたします。

消防団NEWS

大規模な自然災害に備え、装備を強化しました！



本市は、大分川と大野川という二大河川をはじめ、海と山に囲まれた自然豊かなまちですが、自然と共存する以上、震災や河川氾濫のリスクに備えておかねばなりません。市消防団では、令和2年1月に震災時の倒壊家屋からの救助に活用できるエアジャッキとチェーンソーなどを各

分団に配備するとともに、令和3年3月には水害時に自宅等へ取り残された方の救助に活用できる救命用ボートを各方面隊に配備しました。

有事の際に消防団員がスムーズに活動するためにはどうすればよいか、あるいは消防団員が活動しなくて済むような強い地域防災のあり方について、地区ごとに消防団員を交えて話し合うようご協力をお願いします。



「虹の先に見える未来」

消防団スペシャルムービーをご覧ください！



出初式の由来は、1657年に江戸の大半を焼いた「明暦の大火」からの復興に疲弊した人々を勇気づけるために火消したちが決起し氣勢をあげたことがはじまりとされています。

このことにちなみ、本市の令和3年出初式では、従来の「災害被害のない一年」とするための決起に

加え、新型コロナウイルス感染防止に疲弊する市民へ希望を与えるためとして、およそ半世紀ぶりとなる一斉放水を実施しました。

今回、ドローンによる一斉放水の空撮映像や英語ナレーション、市長直々のメッセージなど見どころの多い動画を作成しました。

団員の放水が作り出した美しい虹や消防団員の想いが詰まったスペシャルムービーをぜひご覧ください。

虹の先に見える未来



私にもできる「守られる」から「守る」へ

大分市消防団員募集中！！

お問い合わせは 大分市消防局 総務課TEL:097-532-2188 または地域の消防団員まで



実は私も消防団員です。

災害から地域を守る消防団
今、女性の活躍が求められています

●女性分団 富高幸子さん 会社員
家族を守る知識を得るため入団した消防団、同じ目的意識を持つて集まった世代や職業を越えた仲間たちとの会話からは、いつも刺激をもらっています。



今では応急救護の知識が身につく、目の前で何かあったときに一歩を踏み出せる自分になりました。

●女性分団 宇野乃里子さん 主婦
他県から引っ越してきた私にとって、消防団という信頼できるコミュニティは大きな存在です。
小学生の娘がいますが、女性分団の活動は予定を立てやすいので、自分のペースで負担を感じずに活動できています。



●賀来分団 今園真央さん 保育士
かた昼消防団を経験したことや、団員だった叔父に憧れていたこともあり、違和感なく入団しました。
友人のお父さんなど子どもの頃から顔見知りの方々が丁寧に教えてくれるので、楽しく活動できています。



消防団は「自分たちの地域を災害から守りたい」という思いを持つ住民で構成される地域に密着した消防機関です。
団員達は地域をよく知ることから、災害発生時だけでなく、災害を未然に防ぐためにも欠かせない役割を担っています。平成年には百万人を越えていた全国の消防団員数が現在では約八十二万人まで減少しています。

一方女性消防団員に目を向けると、平成十五年以降、毎年増加を続けており、現在ではおよそ三万人の女性が消防団員として全国各地で活躍しています。

これは、「体力に自信がないが、地域のためにできることをしたい」という女性のニーズと、「火災だけでなく、啓発活動や防災訓練によって地域の防災力を強化する」という消防団の役割が合致して増加につながっているものと考えられます。

本市では、女性が地域ごとの消防団に入団し、地域に密着した活動を行えるだけでなく、「直接的な災害対応は敷居が高い」という女性が一歩を踏み出しやすいよう、本部付けの「女性分団」を組織しています。

女性分団は、応急救護の普及や子どもたちへの防災教育を中心に、災害時の後方支援活動や勉強会の実施などを行っており、安全・安心な大分市をつくるうえで欠かせない役割を担っています。

近年、国内で発生した大規模な災害の経験から、女性が何に困り、何を必要としているのかといった女性の視点が欠けていたことによる様々な問題が浮き彫りになっています。

これは、地域ごとの防災会議等において意思決定が男性だけで行われるケースが多く、女性固有のニーズや意見が反映されていないことが原因のひとつと指摘されています。

例えば、出産前後に被災した場合のサポートや母子家庭の子どもを支える態勢、避難所での間仕切りや授乳室といった環境の問題など、防災は多様な視点から考えていく必要があります。

このようなことから、災害発生後の混乱の中でもスムーズに対応できるよう、日ごろから女性が地域における防災の取組みに主体的に参画することには大きな意義があり、消防団員という立場であればアドバイスもしやすくなります。

大切な誰かを守るため、踏み出す一歩が災害に強い大分市を作ります。
あなたも消防団員として活躍してみませんか。

活動風景



Volunteer Fire Fighting Team

2021 年出初式

